



目の見えない方、見えにくい方のための
”情報・文化・コミュニケーションの拠点”
日本ライトハウス情報文化センター

2006年の身体障害児者実態調査結果によると、視覚障害者（障害者手帳所持者）は全国に推計31万人、大阪には約2万人とみられています。視覚に障害を持たれた方が自立し、社会参加し人権を保障されるには情報が不可欠です。また、情報は多様で豊富であることが必要です。ひとり一人が必要とする情報を提供し、視覚障害者の方に豊かで楽しい生活を送っていただくサポートをする日本ライトハウスをご紹介します。

情報文化センターの役割

目の見えない方、見えにくい方にとって、情報を得る手段に点字があります。点字は、目の見えない方、見えにくい方が指先の触覚により読解する記号文字です。縦3点横2点の6点の凸状の組み合わせによる仮名体系を基本として、アルファベットや数字なども表せます。

この記号による情報を活かして、目の見えない方、見えにくい方の自立を支援する組織に日本ライトハウスがあります。日本ライトハウスは、中途失明した岩橋武夫が1935年（昭和10年）阿倍野に世界で13番目のライトハウスを設立したことに始まりました。現在は、大阪のビジネス街の中心、地下鉄四つ橋線肥後橋駅の真上に拠点を置いています。ここ西区江戸堀の情報文化センターの他に、目が見えなくなった方の生活訓練やパソコン習得にかかわる視覚障害リハビリテーションセンター（大阪市鶴見区）、盲導犬を養成する盲導犬訓練所（千早赤阪村）、点字本や教科書を出版する点字情報技術センター（東大阪市）の4つの事業を行っています。

JUNRA、2009年の日本眼科医会の発表によると、目の見えない方、目の見えにくい方は全国に164万人と推定されます。これらの方の自立と社会参加の機会を促す事を最大の目的に、情報文化センターでは設立以来の「盲人の自立と新職業開拓」にとり組んでいます。それでは、センターの各フロアをこ



日本ライトハウスビル外観

説明します。

3階から5階はサービス部門、6階から8階は製作部門となっています。館内は安全を重視して、点字ブロックや点字表示、見やすいサイン、トイレは万全のバリアフリー仕様、触った形で見分けられるピクトサインと音声案内が完備されています。5階サービスフロアは、目の見えない方、見えにくい方のためのサービス、相談の拠点です。まず、目につくのは目の見えない方、見えにくい方の生活を楽しく豊かにする様々な用具や電子機器、パソコンやインターネットの紹介も行っています。今人気の点字、録音図書や視覚障害関係資料の閲覧、貸し出しの他、対面リーディングスタジオでの読み書きサービスや点訳、音訳サービスも行っています。利用している方に聞くと、「単に情報収集するだけでなく、仕事そのものを支えてもらっています。」とのこと。4階はコミュニケーションフロアです。会議室を利用して点訳、音訳の講習会の他映画会、音楽会を催し、文化・交流活動を広げています。3階の総務フロアはボランティア、社会貢献、視覚障がい者福祉を希望する方の相談を承っています。続いて情報文化センターのサービスを支える制作部門を紹介します。6階は録音製作フロア。200人を超える音訳、校正、編集ボランティアの方の活動拠点です。8室のスタジオで2人1組で年間200タイトル以上の録音図書を製作しています。テレビや映画の音声解説の製作やNHK教育テレビ「きらっといきる」の解説放送も行っています。

7階はメディア製作センター。全ての人が等しく情報を利用できる社会を目指して、国や自治体企業などの委託を受け、教科書や活字出版物を点字や録音などの多媒体で製作しています。8階の点字製作フロアは150人の点訳ボランティアがパソコンで年間200タイトル以上の点字図書を製作しています。文字を読むのが困難な方のためのマルチメディアデジも製作されています。

これは音声に加え画像や文章もパソコン画面でリンクしているので視覚障害だけでなく、学習障害の方にも有効な情報伝達方法です。気になる箇所を読み返したいときなど「しおり」を付けたリ、ページ・見出し移動の機能もあり、読書の楽しさが広がっているようで、今後公共図書館でも普及が期待されます。2万タイトル以上ある点字、録音図書の書庫と貸し出し窓口は道頓堀の別館にあり、ここから毎日、数百冊の点字・録音図書を全国の利用者に無料で発送、ここにはない本は全国の図書館からも取り寄せることができます。館内を見学して、視覚障害の方が目的を持って自分の可能性を探る姿勢が満ちているのが印象的でした。総務の加治川千賀子さんは、「同じ環境にある方々が個々の能力開発に努められています。互いに情報交換することで社会への視野が広がって、自立される機会になれば」と語ります。情報文化センターでは7月から6回にわたってボランティア対象に、「専門点

訳講習会・触知コース」を開催します。触覚の特徴など触知覚の基礎をふまえた上で、触



パソコン指導



スタジオ録音風景

図や立体教材の製作、言葉による説明方法を実例と体験をとおして学ぶものです。点訳者でボランティアで活躍したい方の参加を募っています。

社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター

大阪市西区江戸堀1の13の2

電話06・6441・0015

<http://www.iccb.or.jp>

掲載の記事 写真 イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

株(ファッションビジネス御堂筋新聞